

2014年10月20日

## SAAJ NEWS RELEASE

### 討議資料「動的リスク管理の会計処理：マクロヘッジに対する ポートフォリオ再評価アプローチ」についての意見書を提出

公益社団法人 日本証券アナリスト協会（会長：大場 昭義 東京海上アセットマネジメン  
ト株式会社 代表取締役社長）は、2014年4月に国際会計基準審議会（以下 IASB）が公表  
した討議資料「動的リスク管理の会計処理：マクロヘッジに対するポートフォリオ再評価  
アプローチ」（本 DP）についての意見書を、10月17日（金）に IASB へ提出しました。

#### 【意見書のポイント】

- ✓ 我々は、現行のヘッジ会計基準では、ヘッジ対象とヘッジ手段の1対1の対応関係が必要とされているため、金融機関などの動的リスク管理の実態が、財務諸表へ十分に反映されておらず、注記における開示も不十分と感じている。動的リスク管理は金融機関の重要な競争力の源泉の一つであり、その実態を財務諸表から容易に把握できれば有益な投資情報が得られるため、新しい会計基準を開発することには賛成する。
- ✓ ただし、本 DP の目的は、(1)マクロヘッジ会計の短期的な改善を目指しているのか、(2)受け入れた預金を金利リスク（デュレーション）と信用リスクが異なる資産に投資することで収益を上げるビジネス（典型的には銀行）に広く適用される基準を目指しているのか不明確であり、いずれかの目的への一本化が必要である。
- ✓ (1)を目的にしているのであれば、本 DP の名称は誤解を招くので、公開草案にする時には、例えば『マクロヘッジ会計の改善』といった名称に変更すべきである。この場合、本 DP で質問されている事項の多くは公開草案には含まれなくなるであろう。(2)を目的にしているのであれば、デリバティブの FVTOCI 評価や要求払い預金のデュレーション評価原則等、本 DP では十分に触れていない会計基準を新たに開発しない限り、財務諸表の利用者および作成者の支持を得るのは難しいであろう。

#### 【添付資料】

資料1 *re: Comments on Discussion Paper "Accounting for Dynamic Risk Management: a Portfolio Revaluation Approach to Macro Hedging"*

資料2 討議資料「動的リスク管理の会計処理：マクロヘッジに対する  
ポートフォリオ再評価アプローチ」についての意見書

本件に関するお問い合わせは下記まで  
日本証券アナリスト協会  
電話：03-3666-1577  
担当：理事・教育第一企画部長 貝増 真かいます